

ビザなし交流の体験談 — ホームビジット —

北方領土返還に向けた交流事業、いわゆるビザなし交流事業で訪れた方の択捉島での体験談です。現地の家庭を訪問する、ホームビジットが行われました。

ホームビジットでは一家を挙げて歓迎していただきました。訪問団4名のだとどしい自己紹介の後家族から自己紹介をされても、なかなか人間関係が分かりませんでした。夫婦と子供3人、その子供の内の長女の夫婦とその子どもが遊びに来ていました。また、途中から別な家で暮らしている祖母も交えて8名の家族とで合計12名での食事となりました。

ボルシチのスープ、サケ料理、ジャガイモ料理、水餃子、わらびの漬け物、黒パン等そしてウオッカでの乾杯とにぎやかな食卓でした。

しかし、なかなか会話が通じず、語学の必要性を感じました。

また、深い、温かい交流には言葉、会話によるコミュニケーションの重要性を本当に痛感しました。

浅草で購入した和紙、小間物、紙風船や竹とんぼ等をお土産としましたが、子供達が早速、紙風船や竹とんぼで遊び喜んでくれました。

途中で趣味は何かと聞かれたので歌を歌うことだと答え、日本語の歌詞で「カチューシャ」を歌うと祖母の方が一緒にロシア語で唱和してくれ楽しい一時を過ごすことができました。

現在の私たちにできることの大きな柱の一つとして、四島の現状を自分の目で確かめ、ロシア人の考え方を知る一端にホームビジットが果たす役割は大きいものと考えます。

ホームビジットでの歓迎会

